

白川地区

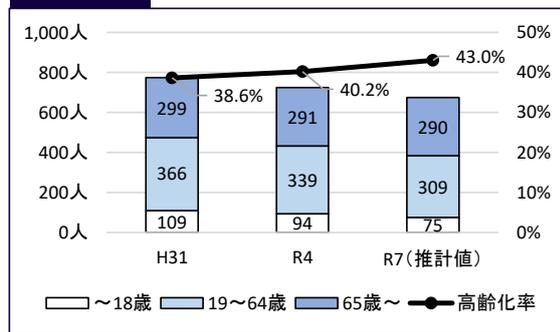
◆概要

	【位置図】	まち協名	白川地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市白木町2813-1	電話	0595-82-7131
		地区構成	白木町 小川町		
		地域特性	亀山市の北西部に位置しており、自然豊かな尾根沿いの集落、上白木、下白木の白木地区及び小川地区からなっています。西の明星ヶ岳、北の雨引山に抱かれ、前田川及び椋川が流れています。亀山・関工業団地に隣接しており、交通の利便性も良く、最寄りには東名阪自動車道亀山スマートIC、フラワー道路、また、明星ヶ岳の中腹には国分寺、通称「虚空蔵(こくぞう)さん」があります。自治機能が色濃く残っており、小学校を核にしたつながりが強い地域です。		
面積	1,760.8ha	ホームページ	https://xsshirakawa.xsrv.jp/kameyama-mie/		
めざす姿	共に支え合い、共に暮らせる『生き生きしらかわの郷』				
地域の誇り	白川小学校を地域の核に、地域の宝である子どもたちと強いつながりを持っている				

◆人口

	平成31年	令和4年	令和7年 (推計値)	増減	
総人口	774人	724人	674人	-50人	
人口密度	0.44人/ha	0.41人/ha	0.38人/ha	-0.03人/ha	
65歳以上	人口	299人	291人	290人	-8人
	比率	38.6%	40.2%	43.0%	1.6%
18歳以下	人口	109人	94人	75人	-15人
	比率	14.1%	13.0%	11.1%	-1.1%
外国籍	人口	25人	24人		-1人
	比率	3.2%	3.3%		0.1%

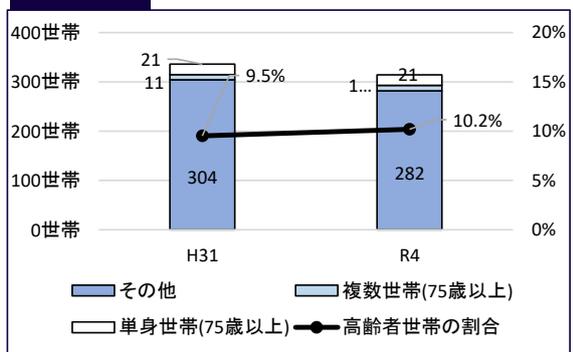
◆人口推移



◆世帯

	平成31年	令和4年	増減
総世帯	336世帯	314世帯	-22世帯
単身世帯 (75歳以上)	21世帯	21世帯	0世帯
複数世帯 (75歳以上)	11世帯	11世帯	0世帯
高齢者世帯割合	9.5%	10.2%	0.7%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	平成31年	令和4年	増減
要支援1.2	19人	16人	-3人
要介護1~5	60人	41人	-19人
合計	79人	57人	-22人

◆地域組織

	平成31年	令和4年	増減
自治会	3	3	0
老人クラブ	2	2	0
子ども会	1	1	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	2
福祉委員	10
介護保険施設・事業所	0
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	0
病院・診療所	0
歯科	0
保育所	0
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	0
放課後子ども教室	1
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	1
乗り合いタクシー停留所	17

◆担当地域包括支援センター

亀山第2地域包括支援センター もくれん

◆サロン活動

	平成31年	令和4年	増減
ふれあい・いきいきサロン	1	1	0
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	0	0	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員

◆活動内容

【交流活動】
そば作りやもちつき集会、明星祭など高齢者と小学生の交流活動を行っています。

【訪問活動】
一人暮らし、二人暮らし高齢者の見守り訪問活動を白川小3.4年生と一緒にしています。



スポーツ大会



炭焼き

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・地区運動会
- ・夏祭り
- ・敬老会
- ・子供神輿
- ・スポーツ大会
- ・明星祭
- ・高齢者宅訪問
- ・炭焼き
- ・パソコン教室

◆生活支援コーディネーターからのコメント

白川地区の人口は市内で5番目に少ない724人で、そのうち40.2%にあたる291人が65歳以上です。地域内314世帯のうち、10.2%にあたる33世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の3.3%にあたる24人が外国人籍です。

地域の特色として、「子供たちは地域の宝。白川小は地域の核。」をスローガンに掲げ、地区運動会、そば作り、明星祭など白川小学校と一体となってさまざまな行事が行われています。また、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)とともに、白川の特産物化を目指す炭焼き事業では、キャリア教育の充実や発展に尽力したという事で、令和5年1月19日に文部科学大臣賞を受賞されました。子どもたちがパッケージデザインを考えたり、「炭っ子隊」として炭を移動販売したりすることで子どもたちの貴重な経験にもなっています。生活環境としては、車がないと買い物や通院をするのが困難なエリアではあるが、平成29年12月7日より移動販売車が毎週木曜日地区内9か所を巡回し、約30名程が利用しており、5年経った現在ではしっかり地域住民に定着しています。今後、人口減少が進むことが予想されるエリアでもある為、住民同士の支え合い、助け合いの体制づくりへの取り組むことが期待されます。